

# 仙台文学館ニュース

Sendai Literature Museum News

第三十六号

## 小池 光の 気になる日本語

25

### ぼくとわたし

日本語は第一人称代名詞が実に多い。

思いつくままあげてみると、ぼく、わたし、わたくし、あたし、あたくし、おれ、われ、おいら、じぶん、余、吾輩などなどある。時代劇ならさらに、みども、手前、拙者、それがしなどなどある。方言ならさらに多くて、うち、わて、ならん西弁。おいどんなら鹿児島弁。そして、おらなら東北弁である。英語ならすべて「I」の一語だ。

これだけ多様な一人称に全部ニュアンスの違いがあり、われわれはそのことをよく知っていて、その場その場にふさわしいものを選び、不自由なく会話し、また文章を書いている。日本人はえらい。

重要なことは、どの一人称を選んだかで以下の話し方、また文章なら書き方が全部微妙に変わってくるということである。ひとたび「わたくしは」と発したが最後、続く語り口はそれにふさわしい改まった気持ちを保っていかねければならない。「おれは」と言えば、続く話も自然と日常的な話し方と気安さを帯びる。その規制力は絶大である。わたしは、エッセイなどを頼まれると、若いころは「ぼく」で書いていた。あるときからこの「ぼく」

が、実際にじぶんにそぐわないものを感じられるようになった。それで「わたし」に変えたら、落ち着いた。ただし「私」と漢字では書かずあくまでひらがなの「わたし」を用いる。漢字で書くかひらがなまたはカタカナで書くかはまた、大いに、ニュアンスを異にする。数ある第一人称のうち「わたし」はいちばんニュートラルで、余計なじぶんが前に出ない感じがする。

名作「吾輩は猫である」は、猫に「吾輩」と言わせることで、以下の文体が決定し、ああいう展開になったと言える。

「わたしは猫である」

「ぼくは猫である」

ではまったくあの小説世界は生まれない。文体も展開もまったく別の小説になっていただろう。英語ならどれでも、アイ・アム・ア・キャットであるだろうに。

以前タレントのビートたけしが書いたエッセイを読んだことがあるが、彼は第一人称に「おいら」を選択し、おいら、おいらで最後まで通していた。いかにもビートたけしらしい破天荒で暴力的な内容と「おいら」がうまく調和し、感心した記憶がある。あの文章も漱石が「吾輩」を選択したのと同じく、第一人称「おいら」の選択によって書かれた文章だった。

### 記念特集

## 開館20周年

## 仙台文学館の

## これまでとこれから

仙台文学館は、2019年3月で開館20年を迎えました。人間でいえば成人式、ようやく一人前というところかもしれません。この20年、文学館はさまざまな展示やイベントを開催し、多くの方にご利用いただきました。文学館を愛してください。今年度の「仙台文学館ニュース」では、これまでのあゆみを振り返るとともに、20周年の幕開けを飾る特別展をご紹介します。みなさまごいっしょに、文学館の記念イヤーを盛り上げていきましょう！

1997年4月  
文学館準備室設置  
1998年4月  
仙台文学館が設置され、仙台ゆかりの小説家・劇作家、井上ひさしが館長に就任

開館前のご様子



開館セレモニーで挨拶やテープカットをする井上ひさし館長。

1999年

3月28日

仙台文学館開館



開館当時の仙台文学館。庭の木々が今ほど茂っておらず、初々しい。



開館記念特別展は「夏目漱石展」を開催しました。

### 学芸室日記

○2018年10月20日(土)

連日大勢のファンで賑わった、連載40周年記念「ガラスの仮面展」。この日は、作者である漫画家・美内すずえ先生のサイン会を開催しました。抽選で選ばれた幸運なお客さまたち一人ひとりに笑顔で対応する美内先生。その姿にスタッフも感激！「ガラスの仮面」が多くの読者に愛され、長く読み継がれるのも納得です。

○2019年1月9日(水)

大河ドラマ「いだてん」の初回放送で、タレントの武井壮さん扮する押川春浪(仙台ゆかりの冒険小説家)が登場したことに仰天し、急きょ企画展「資料が伝える物語」の一角に春浪の資料を紹介するコーナーを設置。ツイッターで呟くと、なんと武井壮さんが「いいね!」をしてくださったではありませんか!! 新春早々盛り上がった出来事でした。



春浪の人となり伝える手紙や写真などを展示しました。

○2019年1月26日(土)

久しぶりの積雪で、開館前にスタッフ総出で雪かきをしました。敷地が広い当館、雪かきは正直かなりの重労働ではありますが、朝のすがすがしい空気と雪景色の美しさに、つつい熱が入ります。ひと仕事終え、充実した気持ちでその日の業務は終了。そして次の日(あるいは、その次の日...)には筋肉痛というのが、「冬の文学館職員あるある」なのでした。



撮影:佐々木隆二







仙台朗読祭(当初は「詩の朗読祭」)



仙台文学館ニュース

「仙台文学館ニュース」創刊号。井上ひさし館長のエッセイ「文化とは何か」が巻頭を飾りました。

### 1999年

#### ◆「仙台文学館友の会」発足

- 開催した展示
  - ▼開館記念特別展
  - ▼夏目漱石展「漱石文庫」の光彩
  - ▼開館記念特別展パート2
  - ▼みやぎの杜の文学者たち
  - ▼夏休み企画展探検！こどもの本
  - ▼晩翠賞・晩翠児童賞40周年記念
  - ▼日本の詩100年の軌跡
  - ▼遠藤周作の世界展母なる神を求めて

### 2000年

#### 開催した展示

- ▼来て・見て・感じる 新収資料展
- ▼開館1周年記念特別展
- ▼ことばの地平 石川啄木と寺山修司
- ▼東北帝国大学教授による
- ▼文人サロンの書画展
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば(とよたかずひこ)
- ▼幻の童謡詩人金子みすゞの世界展
- ▼尾形亀之助展「それからその次へ」



朗読と音楽の調べ

### 2001年

#### 開催した展示

- ▼佐左木俊郎展
- ▼アンビシャス・ガール 相馬黒光展
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば(武田美穂)
- ▼キャッチコピーの100年
- ▼吉川英治展 武蔵からバガボンドへ

### 2002年

#### ◆「仙台文学館ニュース」創刊

1階エントランスロビーを会場に、ステージイベント「朗読と音楽の調べ」シリーズを開始。

#### 開催した展示

- ▼ミニ企画展「東一番物語」
- ▼島崎藤村展「言葉につながるふたつの足跡」
- ▼新資料紹介特集展示
- ▼「石川善助創作ノート」
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば(飯野和好)
- ▼中原中也展「つちまつた悲しみに」
- ▼現代少年少女詩・童謡詩展



「中原中也展」に合わせ、アーケード街に横断幕が登場。



開館5周年記念特別展「宮沢賢治展 in センダード」

### 2003年

#### 開催した展示

- ▼新春企画100万人の年賀状展
- ▼明治の文人から今を生きるあなたまで
- ▼森鷗外関連資料特集展示
- ▼森富氏所蔵資料から
- ▼生誕100年記念 林芙美子展
- ▼近代文学にみる「源氏物語」展
- ▼こども文学館えほんのひろば(川端誠)
- ▼曲軒作家生誕100年記念
- ▼聴く、観る 山本周五郎の世界展
- ▼歌人・原阿佐緒展
- ▼生きながら針に貫かれし蝶のこと...

### 2004年

#### ◆開館5周年

館内と庭を舞台に、宮沢賢治の世界を表現した演劇公演を開催。

#### 開催した展示

- ▼新春ロビー展100万人の年賀状展
- ▼没後100年記念
- ▼落合直文の生涯と業績展
- ▼開館5周年記念
- ▼宮沢賢治展 in センダード
- ▼永久の未完成
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば(さとうわかき)
- ▼土井晩翠展
- ▼学者詩人の足跡
- ▼向田邦子の世界展
- ▼そのまなざしの先に



「宮沢賢治展」会期中、文学館の庭を会場に賢治の世界をイメージした演劇公演を開催。

### 2005年

#### ◆「仙台文学館叢書」創刊

第1号は土井晩翠の『天地有情』

#### 開催した展示

- ▼新春ロビー展100万人の年賀状展
- ▼おてんとさんの世界展
- ▼みやぎの子どもにみやぎの歌を
- ▼与謝野寛・晶子展
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば(馬場のぼる)
- ▼宮尾登美子の世界展
- ▼生きぬく情熱を見すえて
- ▼佐藤鬼房展「その生涯と俳句の世界」

### 2007年

#### ◆3月末で井上ひさしが館長を退任

4月、歌人の小池光が2代目館長に就任し、短歌講座を開講。

#### ◆講座シリーズ

「仙台文学館ゼミナール」スタート

#### 開催した展示

- ▼新春ロビー展100万人の年賀状展
- ▼歌人・扇畑忠雄展 老いてなほ美しきものを吾は見む
- ▼没後80年記念特別展 人間・芥川龍之介
- ▼いやさしかつた、かなしかつた...
- ▼こども文学館えほんのひろば(スズキコージ)
- ▼澁澤龍彦幻想文学館
- ▼みやぎの昔ばなし 佐々木徳夫の仕事から



井上ひさし館長退任の日

### 2006年

#### ◆庭のつづじを愛でながら野点と笙の演奏を楽しむイベントを開催

#### 開催した展示

- ▼新春ロビー展100万人の年賀状展
- ▼高村光太郎・智恵子展
- ▼その芸術と愛の道程
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば(阿部笹子)
- ▼藤沢周平の世界展
- ▼読書サロン 仙台の作家たち



庭の景観を楽しむイベント「文学館の新緑を楽しむ〜野点とつづじ」

### 2008年

#### ◆「街に出る文学」をコンセプトとしたステージシリーズ「ライブ文学館」がスタート

常設展示室をリニューアル

#### 開催した展示

- ▼新春ロビー展100万人の年賀状展
- ▼東北大学創立100周年記念
- ▼学都に息づく夏目漱石の精神
- ▼仙台の「漱石文庫」から
- ▼詩歌の書画展
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば(長くつ下のピピピ)
- ▼草野心平展 言葉をつかんでもちあげよ。
- ▼作家生活50周年 源氏物語千年記念
- ▼瀬戸内寂聴展「生きることは愛すること」



常設展示室



新旧館長がそろってトークイベントに登場。





2009年

- ◆開館10周年
- ◆10周年記念事業として、特別展「井上ひさし展 吉里吉里国再発見」、吉里吉里国まつり、こまつ座公演「兄おとうと」などを開催。

開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼開館10周年企画 寄贈資料展
- ▼特集展示 宮藤官九郎展
- ▼俳優と物語作家(ストーリーテラー)
- ▼開館10周年プレ企画
- ▼米原万里展「ロシア語通訳から作家へ」
- ▼開館10周年記念特別展
- ▼井上ひさし展 吉里吉里国再発見
- ▼こども文学館えほんのひろば
- ▼あそぶぜ! かいつソロリの
- ▼おたのしみ大さくせん
- ▼ミュージアムグッズアーティスト展
- ▼生誕100年記念巡回展
- ▼松本清張展 清張文学との新たな邂逅
- ▼『遠野物語』100年の記憶
- ▼佐々木喜善と仙台



開館10周年記念特別展「井上ひさし展 吉里吉里国再発見」では、展示室が吉里吉里国になりました。

2010年

- ◆4月9日、井上ひさし初代館長死去。
- ◆前年に開催した「吉里吉里国まつり」を「仙台文学館まつり」として継続。
- 以後、恒例のイベントに。

開催した展示

- ▼新春ロビー展
- ▼100万人の年賀状展
- ▼太宰治展
- ▼元気で行かう。絶望するな。では、失敬。
- ▼井上ひさし追悼戯曲資料特集展
- ▼こども文学館えほんのひろば
- ▼佐藤さとのコロポックル物語展
- ▼「だれも知らない小さな国」
- ▼晩翠賞の50年
- ▼文学に描かれた伊達政宗パネル展



吉里吉里国まつり



井上ひさし初代館長の追悼展示を開催しました。

2012年

開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼文学と格差社会
- ▼樋口一葉から中上健次まで
- ▼井上ひさし資料特集展 vol.1
- ▼「十一ひきのネ」『雪やこんこん』
- ▼『闇に咲く花』
- ▼特集展示 仙台の児童文化活動とおてんとさん90年のあゆみ
- ▼葛飾北斎生誕250周年記念
- ▼北斎漫画展 江戸の出版文化
- ▼こども文学館えほんのひろば
- ▼おじいちゃんのでてがみ
- ▼グランドファーザーズ・レター展
- ▼井上ひさしと安野光雅
- ▼文学と絵画の出会い
- ▼和田誠ポスター展

2011年

- ◆3月11日、東日本大震災、福島第一原発事故発生。
- 「そのとき文学館は...」吹き抜けガラスのひび割れ、駐車場の擁壁の崩落、空調給水管の漏水、建物外部の軒天鉄板の落下、書架の倒壊などの被害があり、復旧工事のため約3か月の間休館しました。再開館は6月24日でした。
- ◆7月、井上ひさしの自筆資料(約3万2千枚)が一括して遺族より文学館に寄贈される。



東日本大震災による被害状況



開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼瀧名秀明資料特集展 科学と文学の境界を超えて
- ▼パネル展 文学にみる震災
- ▼こども文学館えほんのひろば 林静一の世界展
- ▼赤色エレジーから小梅ちゃんまで
- ▼角野栄子『魔女の宅急便』の世界 魔女魔女ワールド

2013年

開催した展示

- ▼新春ロビー展
- ▼100万人の年賀状展
- ▼井上ひさし資料特集展 vol.2
- ▼頭痛肩こり樋口一葉
- ▼正岡子規みちのくの旅
- ▼くはて知らずの記
- ▼こども文学館
- ▼えほんのひろば
- ▼人形がいつはいて!
- ▼山村エナミの世界
- ▼ようこそ! 奇贈資料展へ
- ▼星野富弘花の詩画展



レストラン「杜の小径」の店長、故・三山タエ子さん。この笑顔とメニューで多くの人から親しまれました。

2015年

- ◆6月、館内レストラン「杜の小径」店主の三山タエ子さんが死去。企画展に合わせたメニューが人気を博していた。

開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼笹達の国語ば可愛がれ
- ▼井上ひさし「方言」へのまなざし
- ▼井上ひさし資料特集展 vol.4
- ▼北杜夫—どくどくマンボウの生涯—
- ▼こども文学館えほんのひろば
- ▼11ひきのねこと馬場のぼるの世界展
- ▼竹久夢二—詩と絵の世界—
- ▼愛と、ロマンと、漂泊と
- ▼人と街をつなぐ—
- ▼みやぎで生まれた本・雑誌

2017年

開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼イラストレーター 安西水丸展
- ▼こども文学館えほんのひろば
- ▼でんしゃにのつてもんちゃんがやってきました
- ▼とよたかずひこ絵本の世界
- ▼上橋菜穂子とへ精霊の守り人展
- ▼生誕150周年記念特別展示
- ▼夏目漱石—その魅力と周辺の人々—
- ▼(会場: せんだいメディアテーク)
- ▼井上ひさしの国語教室
- ▼井上ひさし資料特集展 vol.7

2014年

開催した展示

- ◆仙台市役所ギャラリーにて、開館15周年ポスター展を開催。
- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼井上ひさし資料特集展 vol.3
- ▼白球と青空—戦争と自由
- ▼井上ひさしの野球
- ▼開館15周年記念特別展
- ▼石川啄木の世界
- ▼くうたの原郷をたずねて
- ▼こども文学館えほんのひろば
- ▼かごとしの世界
- ▼14ひきシリーズ誕生30年
- ▼いわむらかずお絵本原画展
- ▼大佛次郎—大池唯雄
- ▼こころの往復書簡 信頼と励ましと—

2016年

開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼井上ひさしの江戸
- ▼井上ひさし資料特集展 vol.5
- ▼まど・みちおのうちゅう
- ▼こども文学館えほんのひろば 西巻茅子の世界
- ▼にやんでつたって猫と猫と人間の物語
- ▼ドラマ・ウィズ・ミュージック
- ▼井上ひさしの音楽世界
- ▼井上ひさし資料特集展 vol.6



◆館内レストラン「杜の小径」が閉店。その後、「ひさしの杜」がオープン。

17年続く、新春恒例の「100万人の年賀状展」

2019年

開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼資料が伝える物語
- ▼2013年以降の新収資料から第II期

◆仙台市役所ギャラリーにて、開館20年の歩みを振りかえる展示を開催。

2018年

開催した展示

- ▼新春ロビー展 100万人の年賀状展
- ▼田沼武能写真展 時代を刻んだ貌
- ▼こども文学館えほんのひろば
- ▼たかどのほうこの世界
- ▼資料が伝える物語
- ▼2013年以降の新収資料から第一期
- ▼連載40周年記念 ガラスの仮面展
- ▼資料が伝える物語
- ▼2013年以降の新収資料から第II期



予告

間もなく開演!!

### 開館20周年記念特別展

# 「井上ひさしの劇列車」

会期 Ⅰ期 2019年4月27日(土)～6月30日(日)  
Ⅱ期 2019年12月14日(土)～2020年4月5日(日)

会場 仙台文学館 企画展示室

休館日 月曜日(祝・休日は開館)、祝・休日の翌日(土・祝・休日は開館)、  
第4木曜日(12月26日は開館)、12月28日(土)～1月4日(土)

開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)

観覧料 一般800円、高校生460円、小・中学生230円(各種割引あり)

展示関連イベント(Ⅰ期)

## ① 井筒和幸トークイベント 「映画にしてみたい 井上作品」

井上ひさしの大ファンである映画監督・井筒和幸さんをお迎えして、「下駄の上の卵」など、自身が映画にしてみたい井上作品についてお話しいただきます。

出演：井筒和幸(映画監督)

日時：5月26日(日) 13時30分～15時

定員：100名(先着)

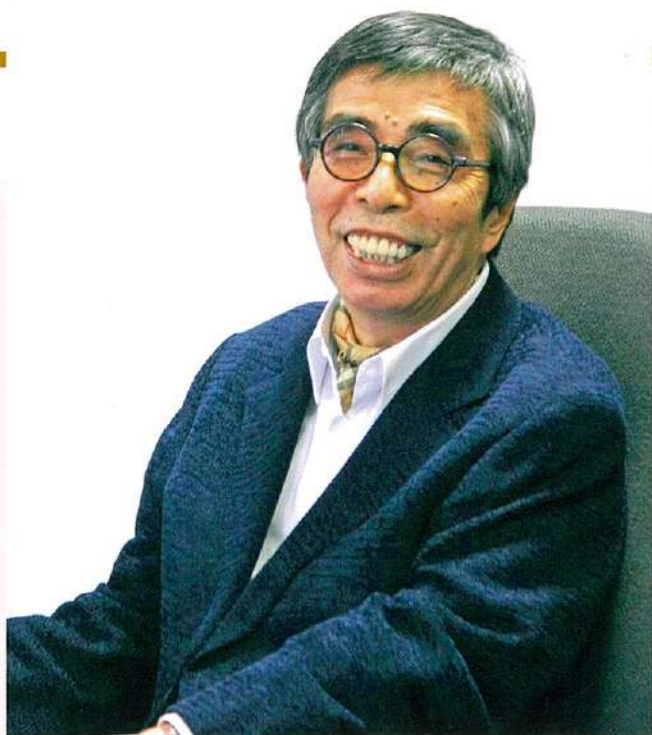
申込受付：4月9日(火)10時～

※会期中の特別  
展覧券の半券  
が必要です。



## ② 展示室リーディング 「賢治と啄木に聞く」

ある日、こまつ座に、突然どしどし童子が現れた。その正体は宮澤賢治。さらに、同じ岩手出身の石川啄木まで出現し、座付き作者・井上ひさしによる珍妙なインタビューが始まった……井上ひさしのエッセイ「賢治と啄木に聞く」を、リーディングでお届けします。



井上ひさし(撮影佐々木隆二)

記念すべき20周年の特別展は、初代館長をつとめた井上ひさしの展示を、春と冬の二期にわけて開催します!

劇作家・小説家の井上ひさしは、作家や文人たちの生涯を一本の戯曲に仕立てる「評伝劇」を、数多く書き残しました。とことん調べ抜いた史実に、大胆な趣向を加えて再構成した作家の人生。そこに、ことは遊び・パロディ・歌・踊り・どんでん返しなど、さまざまな仕掛けをほどこし、ユーモアをまじえて書いた評伝劇は、多くの観客を楽しませています。

井上ひさしの評伝劇をテーマに開催する本展では、展示室を「劇列車」に見立てます。戯曲をイメージした空間で、評伝劇の直筆原稿やプロット、創作メモ、執筆にあたって読み込んだ書籍など、多くの資料を紹介します。井上評伝劇に登場する人びとの生涯と、彼らに対する井上ひさしの深い敬愛を、展示室で感じてください。

空間デザイン：大沢佐智子(舞台美術家)

### 展示で取り上げる作品の主人公

(かつこ内は戯曲のタイトル)

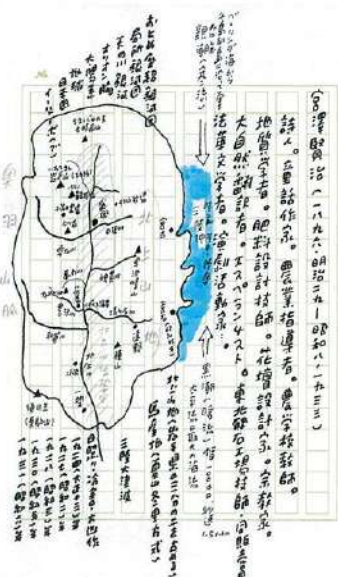
Ⅱ期	Ⅰ期	Ⅰ期・Ⅱ期
魯迅	石川啄木	宮澤賢治
河竹黙阿彌	松尾芭蕉	樋口一葉
吉野作造	夏目漱石	太宰治
チェーホフ	小林一茶	林芙美子
	平賀源内	小林多喜二
	夏目漱石	(吾輩は漱石である)
	松尾芭蕉	(芭蕉通夜舟)
	石川啄木	(泣き虫なまいき石川啄木)
	魯迅	(シャンハイムーン)
	河竹黙阿彌	(黙阿彌オペラ)
	吉野作造	(兄おとうと)
	チェーホフ	(ロマンス)

※内容は一部変更になる場合があります。

こまつ座第32回公演  
「頭痛肩こり樋口一葉」  
(こまつ座提供、撮影：谷古宇正彦)



こまつ座第84回公演「人間合格」(こまつ座提供、撮影：谷古宇正彦)



井上ひさしが仙台文学館の講座で使用したレジュメ  
宮澤賢治のプロフィールや岩手県の地図が、井上の直筆で書かれている。  
賢治に対する、井上の博識ぶりがかがえる資料。



「イーハトーボの劇列車」



井上ひさし旧蔵書『校本 宮澤賢治全集』(遼筆堂文庫蔵)  
「イーハトーボの劇列車」執筆にあたって読み込んだ全集の一部。ふせんが多数貼られている。

◆このほかのイベントについては、仙台文学館の公式ホームページ、ツイッター、フェイスブック等でお知らせします。

◆このほかのイベントについては、仙台文学館の公式ホームページ、ツイッター、フェイスブック等でお知らせします。

### 学芸員による展示解説

日時：4月29日(月・祝)、5月18日(土)、6月15日(土)

各日11時～12時

※当日の特別展覧券が必要です。